

はしがき

故古田東朔先生の御霊前に、「近代語研究第十八集」を謹んで捧げます。先生は去る平成二十五年八月一日、国語学、国語教育、洋学資料研究などに大きな業績を残されて、逝去されました。御冥福を祈ります。

近代語学会は昭和三十三年に始まり、七年後の昭和四十年には「近代語研究第一集」を刊行するに至りました。その時、編集を担当されたのは吉田澄夫先生で、以後第六集まで吉田先生が編集に当たられました。第七集からは松村明先生が編集を引き継ぎ、第十集までその任に当たられました。第十一集以降は、古田東朔先生によって編集が行われ、第十七集まで続いてきました。

近代語学会では、これまでこのように近代語学会に尽力された、吉田澄夫先生、松村明先生に追悼号を捧げて参りました。「吉田澄夫博士追悼論文集」（近代語研究 第八集）、「松村明教授追悼論文集」（近代語研究 第十一集）がそれらに当たります。今回、古田先生の御逝去に際し、古田先生のもと近代語学会の運営に携わっておりました岡部嘉幸、小松寿雄、鈴木英夫、常盤智子が相談し、第十八集を古田先生の追悼号とすることを計画いたしました。幸いにも多くの方々の御賛同を得て、三十二編の論文の御送付をいただき、無事刊行する運びとなりました。御執筆の各位に感謝する幸いです。

本集には、論文のほか「古田東朔教授年譜」を付しましたが、これは「国文鶴見」（第三十一号、平成八年）所載「古田東朔教授 略歴・業績目録」中の「略歴」の部分によるもので、これに御逝去の年月日を加えたものです。こ

の転載を許可されたことについて「国文鶴見」には、深く感謝いたしております。なお、当初「業績目録」の掲載も計画いたしました。が、仄聞するところくろしお出版のほうから、新しい「業績目録」が古田東朔近現代日本語生成史コレクションの第六巻に載る（平成二十七年一月刊行予定）ということなので、かなりの頁数を要することでもあり、本集ではこれを見送ることといたしました。

御執筆の方々、刊行の労を引き受けてくださった武蔵野書院に心から御礼を申し上げます。

平成二十六年十二月二十日

岡部 嘉幸

小松 寿雄

鈴木 英夫

常盤 智子

目次

はしがき	三
古田東朔教授略歴	五
抄物における助詞「ばし」の構文論的考察	一
感動詞・応答詞と評価的な程度副詞との連続性について	三
——大蔵虎明本における「ナカナカ」の分析から——	
『天草版平家物語』から『太平記抜書』へ	
不干ハビアン、J・ロドリゲスそれぞれの葛藤と軌跡	四
易林本『節用集』 版本研究覚書	七
——匡郭考——	
佐藤 貴裕	七

「売れぬ日はなし」……………岩下 裕一……………二九

——商いと俳言——

近松世話浄瑠璃を中心とした終助詞ワイノについて……………米田 達郎……………三〇

——鷺流狂言保教本における終助詞ワイノ再考——

江戸時代における白話小説の翻訳と可能表現……………齋藤 文俊……………三二

——「雅」「俗」二つの漢字文化——

山県大弐の悉曇学と国語音声観察……………肥爪 周二……………三四

近世における「〜まじりに〜」……………中野 伸彦……………三五

明和の洒落本における係助詞ハの変容……………小松 寿雄……………三八

——付・浮世風呂・浮世床との比較——

和漢混交文としての『雨月物語』の文章……………坂詰 力治……………三三

——二形対立の用語を中心とした一考察——

「報告」『身代開帳略縁起』の表記実態……………矢野 準……………三七

——福岡女子大学蔵本による——

式亭三馬「風流稽古三弦」について……………土屋 信一……………三〇

春色梅兎誉美の「腹を立つ」について……………坂梨 隆三……………二七

上一段「射る」の五段化状況……………鈴木丹士郎……………二七

『文明論之概略』草稿の考察」に関する研究ノート……………進藤 咲子……………三〇

明治前半期の接頭辞「不」と「無」……………松井 利彦……………三三

明治のリテラシー……………今野 真二……………三九

鉄道列車名の形成と変化……………鏡味 明克……………三九

○歳児・一歳児用絵本に現れる植物・食べ物……………園田 博文……………三六

——名の由来と特徴——

近世語研究の学史的展開 ……………村上 謙……………227

——戦前における「対立」の思想を中心に——

宮沢賢治の童話における程度副詞……………小島 聡子……………207

——程度の大きさを表す表現について——

東京語の大正時代 ……………田中 章夫……………187

近代以降の謙讓表現における受影性配慮について ……………伊藤 博美……………165

——「お／＼申す」「お／＼ごする」「させていただく」——

パリ万博録音資料の分析 ……………長崎 靖子……………145

——江戸・明治期を中心とした口語資料との比較から——

明治中期・後期の旧制中学教科書における学術用語 ……………真田 治子……………129

——『哲学字彙』編者が執筆した専門書と教科書——

英文日本語文典の用語について……………大久保恵子……………109

——活用語・構文法に関する記述を中心に——

『改正増補英和对訳袖珍辞書』と異なる	
『英仏単語篇注解』の訳語について(1)	櫻井 豪人……………89
ニコライ・レザノフ『日本語理解の手引き』にある	
キリル文字で表記された日本語の特徴について	浅川 哲也……………65
条件表現を由来とする勧め表現の歴史	森 勇太……………45
——江戸・東京と上方・関西の対照から——	
副詞「いっそ」の史的変遷	林 禊映……………19
形容詞終止連体形の副詞的用法	増井 典夫……………1
執筆者略歴	……………三